



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

3. 岡山県における薬剤耐性リンドウ褐斑病菌の発生実態と有効薬剤

[要約]

岡山県内で、クレソキシムメチル（商品名：ストロビーフロアブル）に耐性を持つリンドウ褐斑病菌が発生している。これらの耐性菌に対しては、ダコニール 1000、フルピカフロアブル及びアフエットフロアブルの予防的散布が有効である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

近年、県内でリンドウ褐斑病の発生が増加傾向にあり、耐性菌の発生による防除効果の低下が懸念されている。そこで、県内のリンドウ褐斑病菌における耐性菌の発生実態及び耐性菌に対して有効な薬剤を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. クレソキシムメチル（商品名：ストロビーフロアブル）に対する耐性菌が県内で発生し、ほとんどの圃場で耐性菌が優占する（表1）。
2. クレソキシムメチル耐性菌に対して、リンドウ褐斑病に登録のある薬剤のうち、ダコニール 1000、フルピカフロアブル及びアフエットフロアブルの防除効果が高く、特にダコニール 1000 の防除効果が高い（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. ストロビーフロアブルの防除効果が低下した圃場では、耐性菌の発生が疑われるので、他系統の薬剤による防除を行う。効果が維持されている圃場では、今後の耐性菌の発生及び拡大を防ぐため、本剤の連用を避ける。
2. 本成果で示した薬剤を初めて圃場で散布する場合、薬害及び薬斑による汚れが発生する恐れがあるため、圃場全体に散布する前に数株のみ試験的に散布するなど確認しておく。
3. 本成果で示した薬剤の防除効果については室内試験による予防的効果に基づいて判定しているため、実際の栽培での薬剤散布は、病害の発生前又は発生初期とする。



[具体的データ]

表1 岡山県内におけるクレソキシムメチル耐性リンドウ褐斑病菌の発生状況

産地	圃場No	調査菌株数	耐性菌株数 (%)
県北産地A	1	10	9 (90)
	2	10	10 (100)
	3	10	10 (100)
	4	10	10 (100)
県北産地B	1	10	9 (90)
	2	10	8 (80)
	3	10	8 (80)
	4	10	1 (10)
県北産地C	1	10	10 (100)
	2	10	10 (100)
	3	10	10 (100)
県北産地D	1	10	10 (100)
県北産地E	1	10	10 (100)
県北産地F	1	10	10 (100)
合計		140	125 (89)

注) 寒天平板希釈法による検定結果から判断した

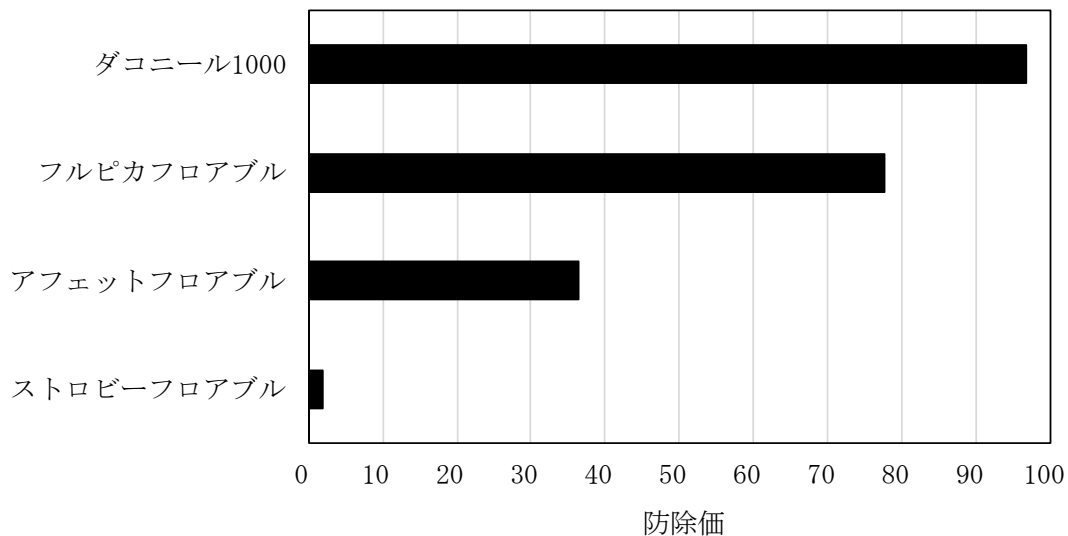


図1 クレソキシムメチル耐性リンドウ褐斑病菌に対する各薬剤の防除効果

注1) リンドウ切り枝に薬剤散布後、県内で採取した耐性菌2菌株を接種し、発病率から防除価を算出した

注2) 防除価が高いほど防除効果が高いことを示す

[その他]

研究課題名：主要病害虫の薬剤感受性の実態解明と有効薬剤の選抜

予算区分・研究期間：交付金・令5～6年度

研究担当者：畔柳泰典

関連情報等：試験研究主要成果、[令5（49－50）](#)